

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内の運営理念をモチーフにしたポスターを掲示している。本人を中心に家族、笑顔、チームワーク、安心を花で現わしている。職員会議や業務の中で話し合いながら実践している。	会社全体の共通理念とともに、事業所スローガン「一歩前へ 利用者の立場に立って」も、廊下や壁に掲示している。この10月に新しい管理者等異動があり、開設時からの職員もいるが思いも変化しているので、理念がケアに反映されているかなど、あらたな体制での話し合いを始めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域行事や認知症カフェ「よらいす」が中止され、地域との関わりが薄れて来ている。地域包括主催のむらさきの家に参加することで関わりを維持している。また隣の方が畑作業をしていて、梅を頂き梅ジュースを作ることができた。	地域で暮らす方々と入居者とのふれあいの大切な機会だった事業所主催の認知症カフェ「よらいす」がコロナ禍のため中止になるなど地域の盆踊りや消防団活動への参加や地域の方との付き合いが減り、地域に空き家が多くなっているが、隣の方から季節の野菜や梅を大量にもらうなど、手作り梅ジュースを作ったりして地域のつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の認知症と家族の支援事業で家族から相談があり、認知症に特化した施設が少しでも力になることで、地域貢献を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も開催が出来ないことが多いが、活動報告を通し発信している。会議が出来ないため意見を頂き次の取り組みに生かせるようにしている。	運営推進会議を書面開催で続けてきたが、今年7月に顔合せ程度ではあったが、開催することが出来た。参加メンバーには事業所での活動を報告している。	運営推進会議は事業所からの活動内容の報告とともに、現状把握やサービス内容等話し合う機会を持つ大切な会議とされている。今後は、家族や参加者からの意見への回答や残された課題、取り組みの内容、必要なメンバー検討や参加への開拓、利用者家族などへの報告等でサービス向上に向けて継続的に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前はオレンジカフェの取り組みで市役所担当者との交流があったが、今は少なくなっている。しかし担当者とは顔の見える関係であり、問題あれば相談出来る関係になっている。今後も継続していきたい。	市が主催する会議に参加したり、また諸用事で意見交換したり、このたびの管理者異動の挨拶等も行うなど協力関係が取れており、何かあれば相談できる体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については身体拘束排除宣言や職員倫理をマニュアルや玄関に掲示したり、定期的な身体拘束廃止委員会を開催し、職員に周知できるように努めている。またオンデマンド研修を受け身体拘束しないケアに取り組んでいる。	職員はオンデマンド研修を受講しており、関係するマニュアルも用意され対応がなされている。入居、間もなく帰宅願望が強い状況を示す利用者もおられ、帰りたい気持ちが有る時はさり気なく一緒に歩いてみるなどで、その方の行動パターンがおよそ理解でき、少しずつ落ち着いてくるよう生活支援が行われている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内でも高齢者虐待予防の研修を実施したりオンデマンド研修で自宅で学習し虐待予防に努めている。また、管理者や職員が互いに協力し合い、利用者の状態だけでなく職員の様子も情報共有できており、注意しながら防止に努めている。	職員のストレスチェックは実施され、研修はオンデマンドで各自行っている。管理者は職員が気さくに話しかけや相談出来るよう意見交換しながら過ごしている。管理者としての研修をオンデマンドで自らも行き、虐待が見逃されることの無いよう注意しながら見守っている。今後も、マニュアルの適切な検討や差し替えなどを行い、職員が日々のケアの確認等で使用出来るよう管理されることを期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンデマンド研修で学ぶ機会があり、必要と思われる利用者があった場合は関係機関との話し合いを行い、適切な制度が活用できるように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定については文書や口頭説明によって納得していただいている。日頃、家族とは面会や連絡時にコミュニケーションを行うように努め、話しやすい環境づくりにも力を入れている。疑問点等を尋ねられた場合は理解できるように丁寧な説明を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で恒例の忘年会もできないが、月1回のお手紙や状態報告、ケアプランなどでご家族と話をする機会を頂いている。また、契約時にも良い施設にしたいのでなんでも話してほしいと話し、風通しの良い関係を心掛けている。	以前は面会などの来園のおり、さまざまな行事の参加の時などでいろいろな会話もできたが、コロナ禍のためどうしても少なくなっている現状がある。オンラインやタブレット等を使用しての面会に加え、この10月から直接の面会を再開し、利用者や家族との交流が感染症対策を講じながら行われている。今後も意見をもらいながら良い関係を継続したいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く意見出しシートやアンケート等で意見を提案できるようにしている。代表者も時々ホームに来ては職員に話かけていて、意見を言いやすい環境を作っている。	職員からの意見だしシートやアンケートで意見を提案しやすい形を大切に実施しており、管理者は、職員との関係性は話しやすくあたたかい雰囲気が保たれていると考えている。今後も意見を出し合い、話し合っケアに反映出来るよう考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会議を通して施設や職員の様子を把握できるように努めている。また、職員の働く環境整備に力を入れており、職員個々で働きやすい環境整備するため、職員からの要望を取り入れている。また、職員同士のコミュニケーションを図るツールとしてサンクスギフトを利用し、職員間の円滑な関係作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修やオンデマンド研修を行い個々のプログラムで職員の質の向上に努めている。また、資格習得にも支援制度があり、個々が意欲をもって取り組めるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	RUN伴やオレンジカフェでの交流がなくなり同業者との交流は少なくなったが、オンライン研修や入居相談などを通し交流を行っている。コロナの影響がなくなり以前のように自由に活動が出来ることを切望している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や事前面談から要望等を聞き取るようにしている。またサービスを開始する前段階でも意向を聞き、ケアプランに反映している。本人の発する言葉や表情をキャッチしながら良い関係が構築できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前段階とその10日程度経過後、ご家族様に連絡、本人の様子を伝え意向を伺っている。面会や電話で出来るだけ細目に連絡し、関係作りに心掛け意見が言いやすい関係になるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に本人や家族、ケアマネージャや関係事業所など関わりのある方から情報をいただき、初期の段階の今、必要とする対応をご本人やご家族、職員の意見を入れながら支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を考えながら本人の可能性に着目して出来ることを見つけ、グループホームでの役割が出来る支援をしている。共に生活する事や家族からのお話を伺う事でその人を理解し想うことで人間関係を築くことを日々行っている		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や電話、写真付きのお手紙を担当職員が作成しホームでの様子を伝えている。特に手紙は楽しみにしている家族も多く、担当職員にお礼の手紙や介護のヒントを頂き支え合う関係作りを目指している。	事業所では月末の便りとともに、面会等難しい状態が続いた事も配慮して、少しでも事業所内での生活の様子がわかるよう、担当者が一人一人の写真と言葉を添えて毎月家族に送っている。それらは利用者の事業所内での生活とともに、以前の生活や家族との関係も支える力になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会制限であるがガラス越しの面会など出来る支援に努めている。看取り時には面会制限が緩和され面会者に色々なお話を聞くことが出来るが、元気な時に聞きたかったと思うことも多く、残念に感じることも多い	家族との直接の面会は10月より再開しコロナ情報等の様子を見ている。いつも出かけていた買い物や外出についてはその方々の個別対応を行っていきたいと話し合い、今後も情勢を見ながら考えて、再開できることから再開していききたいと相談している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに役割や特技が生かせる取り組みをしている。出来ることに着目し感謝を言葉に出すことにより互いを認め合う関係が出来るように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ入居した場合は電話などで様子を伺ったり継続した支援が出来るようにどのような介護をしていたか具体的に話をしている。ご家族からの相談を受けることもあり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での会話や行動、表情等を把握し、思いを把握できるようにしている。ご家族や親族などから意向や意見を頂き職員と共有しながら、グループホームの環境で出来るベストを検討しながら把握に努めている	入居時に家族の方に、利用者の現在の暮らし方や本人の意向や好き嫌い等、「暮らしの情報」に記入してもらい、生活支援や計画書に生かせるよう努め、家族の方にも知らせるなど共有に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入してもらった暮らしの情報やそれを基に職員からの話しかけで得た情報、家族以外の方からの情報、ケアマネからの情報等を取り込みながらこれまでの暮らしを把握できるように努めている。新たな情報は追記を行い把握ができるようにしている。	入居時の家族から記入してもらった「暮らしの情報」や居宅時担当の介護支援専門員からの情報を把握している。入居にあたり、担当者や管理者は利用者の生活環境の中で面接し、出来るだけこれまでの暮らしなどを把握できるよう考えて支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や本人からどのような生活スタイルであったかをお聞きし、今までの生活スタイルを尊重した暮らしができるように支援している。また、職員がいろいろな作業をしてもらい、出来ることに着目し役割をもちホームの一員として生活ができる支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画のアセスメントやモニタリングは居室担当職員が担当している。本人やご家族、職員等で話し合い介護計画を作成している。状態変化があった場合は多職種連携し、現状にあった介護計画を作成している。	家族の意向を踏まえて、居室担当者と看護師が介護計画の原案を作成している。コロナ禍のため電話で家族にも直接に確認を行っている。義歯を直したことによりお粥からご飯食に、副菜も刻み食で提供可能となった事例も計画に生かして取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り、支援経過、職員間の連絡ノートを活用し、情報を共有している。介護計画にもその情報を生かし、個々にあったプラン作成に努めている。最近では個別の案件に関する意見を記入するノートの活用も始まっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に応じ意向の確認を行うが、状況が変化することで意向も変化する。その変化に対してその都度職員で検討しながら意向に沿ったしえんができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関に利用者が作った残暑見舞いを貼りだしたところ、配達してくれる豆腐屋さんにも褒められ励みになっている。地域に気軽に出かけられない今でも出来ることを見つけ取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医がかかりつけ医となっている利用者も多く良好な関係になっている。協力医以外のかかりつけ医には手紙で様子を伝えたり、職員が家族と同行して受診することもある。皮膚科や歯科医の往診の手配や職員の受診介助等適切に医療が受けられるようにしている。	認知症に精通した協力医は隔週土曜日に往診があり、かかりつけ医となっている利用者も多い。皮膚科、歯科も不定期ではあるが往診もあり予防歯科も担当してもらっている。職員が家族と共に同行受診したり、家族だけの受診には状況報告の手紙を連絡し返事もらい適切な医療支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づいたことを看護師に伝え主治医を通して適切な医療が受けられるように支援している。また、家族や主治医と共に話し合う機会を作り意向や状態の共有し支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先の病院と地域連携室を通し連携できるように対応している。退院時も病院から情報を得て不安が残らないように支援している。病院に働きかけカンファレンスにホームも入れてもらい、協力体制ができるように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活の中で変化があれば、電話等で家族に連絡をし、都度家族の希望を確認している。その意向を確認しながらホームでできる支援、出来ない支援を伝え、主治医と相談しながら、医療とホーム、家族とが連携し意向に沿えるように、職員が一丸となって支援をしている。看取り経験が多いが、画一的でなく、一つ一つのケースをチームで支援することを最も大切にしている。	看取り状態と医師が判断した時は同意書を交わし、医療・施設・家族が連携し情報共有しながら支援している。今年に入って何名かの看取りがあった。看取りの後、「デス・カンファレンス」を職員全員で行いそれぞれのケースに職員は対応している。毎日の状態観察から、その日の状況判断もできるまでになったとの職員の声もある。コロナ禍の中、家族・親戚が部屋での看取りに感謝の言葉もいただいている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的に救急救命の講習を会社全体で行っている。また、利用者で急変の考えられる利用者には、個別に看護師から指導をしている。	AEDは設置されているが消防署に出向いての研修はコロナ禍のために実施できない状況である。そのため、オンデマンドでの研修や看護師の指導により説明書の理解を深めようとしている。マニュアルも確認され、ノロウイルスや誤嚥等の研修も考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の訓練は年2回実施している。大雨で浸水しそうになったり停電になったことを機に、月1回の訓練を実施出来るように努力している。今までは避難することに重きを置いたが、ホームで過ごすことも考え食事や非常物品の整備なども行っている。	過去における水害の経験から、月1回の訓練を計画しているが出来ない時もある現状である。6月の集中豪雨では浸水寸前になり、その後には、職員間で問題点の確認(避難方法・手段・職員体制・利用者対応)を行った。ガスコンロ、非常食、備蓄品も再確認された。コロナの影響もあり地域との交流が行われないう状況ではあるが、災害訓練を行う時は近隣地域の方々にも参加を促すお願いの声掛けなどが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人や家族、ケアマネ等から個人の情報を収集し、尊重できるよう配慮している。本人の言動や家族からの情報等を職員間で共有し、利用者ひとり一人に応じた対応を心掛けている。	経営者の呼称や接遇についての指導方針が共有されており、各職員は尊厳やプライバシー保護を日々大切に考えており、呼称や接遇も徹底されている。また、管理者もその点は日頃から注意を払っている。オンデマンド研修の受講、プライバシーの保護マニュアルもあり、トイレの言葉掛けもその人だけに聞こえるようにするなどの対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で何が好きかとか希望を会話や食事、家族の情報などを把握している。誕生日会で好みの物を提供したり、ドライブで出かけたりと希望に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人間的なことやある程度の時間の流れで決まりを優先せざるを得ないこともあるが、個々の生活のペースは大切にしている。職員は利用者の好みなどを把握し希望に沿った支援ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを大切にしている。入浴の時に洋服を選んでもらっている。散髪する時も本人に事前にどのようにしたいか聞き、理容師さんに伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食には個々の好みのものをメニューに取り入れている。今はあらかじめメニューが決まられているが、畑でとれた野菜と一緒に調理をし、職員と利用者が一緒に食事の準備をすることもある。天気の良い日は中庭でみんなで食べ片付けもできる人が一緒にして助け合い生活すること大切にしている。	看取りの対応の方が多くなり、介護量が増えたため、食材は外注先からの取り寄せになってしまったが、畑で採れた新鮮野菜も調理して提供している。利用者の好きな物を家族が差入れ、お裾分けしたりして食事を楽しんでいる。また、食欲減退の利用者家族から、そうめんが好みであったことを知り提供を始め、毎食提供で食事を満足されている。準備・片付けも可能な利用者負担にならない程度に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録し職員が把握出来るようにしている。便秘やその他病気、食事量の低下等の変化があれば食事量や水分量の記録を通常の記録とは別紙にし把握している。また、摂取量が少ない人には好きなものを提供出来るよう個別に対応し食事や水分量が確保できるように支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内のケアを実施している。口腔ケアを拒否する人にも出来るだけ口腔ケアが出来るような声掛けを行っている。職員が口腔内の異常を発見したり、本人の訴えがあった場合は早急に治療ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にトイレ誘導の時間はあるが、その時にできなかった方は時間をずらしたり、利用者の行動の観察によってトイレ誘導するなど個々に応じたトイレ誘導をしている。また、オムツを使用しても皮膚の状態や失禁の有無によってオムツから下着やパンツ型を試したりと柔軟な支援が出来るように努めている。	排泄の時間・量・パターンを把握し個々に即した対応、入浴時にお腹に触れて張りの確認などプライバシーにも配慮しながら支援している。退院後オムツになって帰った方がリハビリパンツに夜間帯はポータブルトイレにまで自立した事例など、自立支援に積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘と感染予防のためにヤクルトを飲用している。また、便秘の場合は便通の良くなるお茶や水分の摂取、粉寒天などの食品、便秘薬など個々にあった便通の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人と話し合いや状態で曜日や回数を決めている。入浴日に入りたくない時は曜日を変更したり早い時間を希望する人にも対応できるよう配慮している。立ち上がりなど不安定の方には2人で介助できるようにしている。入浴の時は様々な話かけを行って情報の把握や楽しみとなっている。	入浴日、順番は予め決められているが、個々に沿った対応に努めている。入浴剤を入れたり浴槽が大きいと手摺を渡したり、安全に不安の無いように手摺に掴まりながら反対向きにシャワーをする方がいたり、利用者本位での入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前からどのような睡眠パターンであるかを聞き取りそれに応じて支援をしている。入居後、どのような睡眠であったか共有しながら対応している。状態の変化に応じて休息を支援したり、夜間覚醒者にはその人にあった支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理をしている。介護職は看護師と連携し看護師は医師や薬剤師と連携し服薬を支援している。内服がうまくできない人にはトロミ剤を使用したり、薬をつぶして内服するなど確実に内服できるように努めている。状態の変化があった場合はすぐ看護師に連絡し医師の指示を受けるなどの早急な対応が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの一員として役割りを持つるよう出来ることを探し、出来ることの支援を行っている。また、好きなこと、好きなものを家族に聞き取りしてホームでできるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出の機会が減少してしまっただが、ドライブで外出したり家族との通院などには柔軟に対応している。また、ホームでドライブする時は個々の思い出の場所を通して思い出してもらえよう声掛けしている。	コロナ禍前は職員と日帰り温泉に行き、帰りにラーメン屋に寄ったりして外出を楽しんでいた。ドライブ外出で住んでいた馴染みの場所を通ったり、受診に行く時に家族と同行したりしている。同じ敷地内にあるデイサービスを利用する夫に週1回面会するのを楽しみにしている方もおられ、今後も家族との交流が継続できる支援が期待される。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は個々の管理として家族の同意を得ている為、持参している人はほとんどない。本人と共に買い物に行くことができないので今は職員が買い物を代行している。室内靴は本人が選んでもらうことが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む親族から電話が来て時々話をすることもある。また、毎週のように家族から手紙が届く方もいる。年賀状ですら字を書くことを拒否する方もいるが名前だけでも字を書いてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は利用者の状態や関係によってテーブルの配置を変更している。テレビや庭を楽しむようにしたり、共用部に居ながら少人数で過ごすこともできる。リビングの窓は広く眩しいとの訴えがあった場合はカーテンで調節している。	玄関に掲示されている切り絵は来訪者にも評判であり、玄関脇にアケビ、南瓜やさつま芋が飾られ季節感を感じさせてくれる。居間には職員と一緒に作成した大きなカレンダーが生活感を感じさせてくれる。コロナの影響で横並びのテーブル配置で過ごされているが、居間の一角には畳コーナーもあり、そこにはベットも置かれ居心地の良い雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファや長椅子を設置しているが、部屋にいるよりもリビングを好む人が多い。気の合う同士で過ごすことが多く、そこが居場所になっているように感じている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用品などをお願いしているが、持参される家族はほとんどないが家族が自発的に自宅にあったものを持参されることもある。入居後ホームで作った作品や誕生日の色紙などが馴染みのものになることもある。	居室には親族の遺影を飾られ好きな本を置いたりと本人の意向に沿った配慮がなされている。使い慣れた枕に変えようと家族との情報により安眠が出来るようになった方もおられるとのこと。また、孫と行って楽しんだディズニーランドの話聞いて、その場所に居るように居室内を飾りつけて喜んでもらうなど、利用者が喜ぶための工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームではできることに着目している。一人一人出来ることを見分け、どのように支援をすれば出来るのかを生活の様子を観察している。洗濯たたみでもテーブルの人、畳で行う人と決めており安全性やどの場所が落ち着いて出来るかを配慮しながら支援をしている。作業によっては一人が好む人には1人で作業が出来るようにしている。それらに支援を通し職員には新たな発見がある。		